

本会議質問から

第1回定例会では、12人の議員が個人質問を行いました。質問順に主な質問事項は次のとおりです。なお、質問の詳細は熊本市議会ホームページの会議録等をご覧ください。

自民党



齊藤 聡 議員

質問 1 政令指定都市と道路整備
指定都市になり国県道・市道の一元的管理が可能となった今、権限移譲を受ける国県道との交差点の改良を願う。

答弁 渋滞の著しい交差点を洗い出し、その原因と対策を検証した上で、交通管理者等と協議しながら計画的、重点的に実施していく。



質問 2 学校における防災備蓄体制の整備について
避難場所の多くが小中学校となっているが、救助用具や食料毛布等の物資の備蓄がない。この解決を願う。

答弁 市域全体をカバーする24箇所の備蓄拠点に加え、避難所ごとの備蓄内容等について関係部局と協議しながら、対応していく。

くまもと未来



田中 敦朗 議員

質問 1 公平公正の観点から、下水道料金改定を
温泉井戸利用の下水道料金定額制は、実態に即しておらず不公平である。今後どのような徴収方法をとるのか？

答弁 使用水量認定の基礎となる世帯の実態調査等を実施し、平成25年度中にはより実態に即した料金体系となるよう取組む。

質問 2 スマートインターチェンジ（※14）有効活用について
北熊本SA（※15）のスマートインターチェンジ開通後の、有効活用と三号線混雑解消のため、北区道路整備促進を。

答弁 インター周辺の道路改良や西環状道路の整備推進、更には、国道3号バイパスの早期整備を要望するなど、利便性向上等に努める。



用語解説

※14 スマートインターチェンジ 高速道路のサービスエリア、パーキングエリア、バスストップ等から乗り降りができるように設置されるETC限定のインターチェンジ。

※15 SA サービスエリア。高速道路等に設置される休憩施設のこと。

市民連合



田上 辰也 議員

質問 1 受動喫煙（※16）とニコチン依存症の防止について
熊本市施設における受動喫煙防止対策指針の進捗はどうか、ニコチン依存症を克服する方法を啓発しては。

答弁 本年4月1日までに2施設を除き施設内禁煙とする。HP（※17）にニコチン依存症の解説、禁煙治療の方法を掲載しポスター等でも啓発。



質問 2 立野ダム建設による環境影響について
立野ダム建設による環境への影響は甚大だ。熊本の豊かな自然を守るという立場から慎重に対応してはどうか。

答弁 今後とも環境面への影響については、国に検証を求め、十分環境に配慮して頂くよう要望を行っていく。

用語解説

※16 受動喫煙 タバコを吸わない人が、室内または、これに準ずる環境で、他人のタバコの煙を吸わされること。

※17 HP ホームページ。

公明党



藤岡 照代 議員

質問 1 生活習慣病（※18）対策と介護支援ポイント制度導入
生活習慣病対策強化の庁内プロジェクト設置や介護支援ポイント制度による元気高齢者による支えあう社会作りを。

答弁 関係部署によるプロジェクト設置を検討する。介護支援ポイント制度は制度設計、受入施設との調整、広報活動等の準備を進める。

質問 2 市民による賑わいづくりと若者雇用の強化
市民参加型の中心市街地活性化の強化、空店舗対策及び地元企業の活性による若者新卒者の雇用の確保を求める。

答弁 担当室を新設し、情報の共有化やPRを行い賑わいづくりを支援。官民連携により雇用のミスマッチ（※19）を解消し、地元雇用を促進する。



用語解説

※18 生活習慣病 食習慣、運動習慣、休養、喫煙、飲酒等の生活習慣が、その発症・進行に関与する疾患のこと。

※19 雇用のミスマッチ 求人と求職の要求が一致しないこと。

共産党



益田 牧子 議員

質問 1 時代おくれの大型コンベンション建設（※20）中止を
産文会館を再生し活用すること。大型コンベンション建設は人口増時代の発想であり時代遅れ、建設計画中止を。

答弁 MICE施設（※21）は、人口減少社会の中で、交流人口を増加させる施策であり、花畑地区の再開発事業と共に、地域経済の維持・発展に寄与。

質問 2 住宅リフォーム助成制度実現で、地域を元気に
佐賀市では、2億円の住宅リフォーム助成制度を実現。23億円の仕事ができたと。熊本市でも先進地調査し実現を。

答弁 同制度を経済対策として、政策誘導の目的無しに導入することは難しいが、先進地を視察しその状況についてしっかりと把握したい。



用語解説

※20 大型コンベンション建設 大規模な会議、大会を行うための施設の建設。

※21 MICE施設 会議、研修のほか、各種のイベントや展示会等の誘致・集客ができる施設。

自由クラブ



北口 和皇 議員

質問 1 災害時の避難所としての学校施設の安全性
液状化（※22）が想定されるなど防災機能が不十分な学校施設が多く避難所に指定されている。今後どう対策をとるのか。

答弁 災害種別ごとに避難所に適さない箇所については、補完施設として民間ビルなども含めて検討を行う。

質問 2 江津湖の管理と利活用計画の策定について
江津湖の情報の共有化や、環境保護と観光が両立した管理のため、中長期的な利活用整備計画を策定すべき。

答弁 環境保全と観光を両立するよう情報共有していく。また、利活用計画は江津湖協議会の意見をもらい、まずは課題等を整理していく。



用語解説

※22 液状化 砂質土がゆるく堆積してきた地盤が、地震などの振動を受けることによって液体のような泥水状態になってしまうこと。

自民党



澤田 昌作 議員

質問 1 近見新駅（仮称）の整備と駅名再考について
JRとの協議と今後のスケジュール及び西南部の拠点として交通結節機能（※23）強化を図る駅前広場の整備について。

答弁 JR九州へ本年度内に要望書提出、来年度に新駅設置の覚書締結を目指す。駅前広場は結節強化のために必要な機能の整備を進める。



質問 2 人口減少に対応した元気高齢者対策について
三世同居のメリットを活かし同居近居を望まれる方に対し自治体として積極的に支援策を検討してはいかがか。

答弁 各世代に有益と考えられるが、価値観やライフスタイルは多様であり、自治体としてどのような関わり方ができるか研究する。

用語解説

※23 交通結節機能 異なる（又は同じ）交通手段を相互に乗り換え・乗り継ぎできる機能。

くまもと未来



松野 明美 議員

質問 1 市立特別支援学校（※24）について
中学部から高等部まで継続的に就労支援を受けることが出来る小中高一貫校または中高一貫校を設置すべきだ。

答弁 多様な学びの場を提供するため、早期設置の必要性の高い高等部を優先して整備するとともに、小中学部も設置に向けた検討を行う。

質問 2 熊本城マラソンの今後について
地元参加者を維持して県外参加者を増やし、5年後には県内1万人、県外1万人の2万人が走る大会を目指そう。

答弁 スタート地点やコースなどの安全面の確保や長時間の交通規制等を考慮する必要があり、関係機関や団体とも協議していきたい。



用語解説

※24 特別支援学校 障がいのある児童・生徒が自立し、社会参加するための力を培うため、一人ひとりの教育的ニーズを把握し、生活や学習上の困難を改善又は克服するため、適切な指導及び必要な支援を行うための学校。